



みみだより

No.30

鳥取聾学校ひまわり分校

R3.12.10

文責：迫田

ホタル

半年前のことですが、久しぶりに蛍を見ました。ずっと見たかったのでとても嬉しく、そして、はかないながらも呼吸のように点滅する光に感動しました。ゲンジボタルとヒメボタルの違いについても知りました。新しく知ること、感動すること、興味のあることに時間を割けることは有意義です。小さい願望でも、実現すると生きる大きな喜びとなり、エネルギーとなります。12月に入り、2021年もあとわずかとなりました。エネルギーを充電できる心と時間の余裕を大切に、来年も成長していきたいです。



ちやうどうけん 聴導犬は心強いパートナー



聴導犬

聴導犬は、音を知らせてくれる犬。音に興味を持ち、それを伝えるように訓練されています。家の中での仕事のほか、外出時は自動車のクラクションや自転車のベルを知らせ、銀行や病院などで名前を呼ばれた時に教えてくれます。日本で聴導犬の訓練が始まったのは最近のことで、数はまだ数10頭しかいません。

【家の中での聴導犬の仕事】体に触れるなどして知らせてくれます

- 携帯メールの着信音
- ノックの音
- 玄関チャイムの音
- 目覚まし時計の音
- FAX 着信音
- 緊急時対応、警報器音
- 赤ちゃんの泣き声



「発達と障害を考える本9 ふしぎだね!?聴覚障害のおともだち」 倉内紀子監修 ミネルヴァ書房 より

聴導犬として活動できる期間は、2歳から10歳までの約8年間です。犬の年齢の10歳は、人に換算すると約60歳くらいです。

引退後は、ボランティアの方が引き取ったり、ユーザーが引き続き育てたり、子犬の頃育ててもらった家庭で余生を送ったりします。



音がきこえない、きこえにくいことからくる不安を軽減し、快適で安全な生活を支えるのが役目です。



聴導犬がいるから、安心して読書ができる、洗濯物も干せる、寝過ごす心配がないので熟睡することもできるという人もいます。そして、もう一つ大切なのが、外見上わからない「聴覚障がい」という『見えない障がい』を、聴導犬と一緒に居ることで『見える障がい』に変えてくれるという役割があります。

盲導犬も介助犬も、ユーザーが指示をした作業を行います。でも聴導犬には、ユーザーがわかっていない「音」を判断して教える必要があります。つまり、聴導犬だけが、唯一【自発的に作業をする】必要があり、自分で判断して行えるよう訓練されているのです。



公益財団法人日本補助犬協会 より

おすすめ

書籍の紹介

『バリアフリー・ブック 耳の不自由な人の生活を知る本 “音”を見たことがありますか?』
(財) 共用品推進機構・編 小学館



図書館にあります

音のない世界を体験できるまんがです。赤いシートを使って文字を消し去ることで、音のない世界の不便さを少しでも理解できるようになっています。きこえにくい人の立場で、ストーリーを読むことができます。とても分かりやすく、20分程で読めました。巻末には、手話についての説明や、耳ライフデータファイルなど、情報が盛りだくさんの一冊です。

ワンポイント 手話



プレゼント



もっと

「手話のイラスト by シュワリン」より